十二日夕刊
磐城時報
福島縣石城郡平町紺屋町十四
編輯兼發行人　岡田弘成
印刷人　岡田弘成
印刷所　福島縣石城郡平町紺屋町十四　加納活版所
發行所　福島縣石城郡平町紺屋町十四　磐城時報社
一部金貳錢　一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五拾錢
▲日刊（日曜、祭日）休刊

農山村救濟の土木工事愈々着手
使役人員一万五千人　八月末には完成

平土木監督所管内の失業者救濟並に疲弊農山村救濟を目的とした土木工事は先づ最も疲弊其極に達してゐる川前、澤渡、三阪田人、荷路夫各村の分から着工すべく準備中の處愈々十三日から地元請負ひ工事として着手する事になつた。使役延人員は一萬五千人で賃銀は一日八十錢であるが、同工事によつて前記農山村の人々は仕事にありつけく事が出來ると大喜びである。

四倉漁港起工式協議

四倉町では漁港修築問題で上京中であつた新妻町長が歸町したので十日午前九時から委員會を開き起工式に關し協議をなした

鈴木總裁平驛通過

鈴木政友會總裁は二十日午後十時上野驛發二十一日午前三時二十分平驛通過北海道の政友會大會に臨席する。

在鄉軍人武道大會

石城郡在鄉軍人分會では二十八日午前九時から磐城中學校内で會員の武道大會を擧行する。

▲木炭事業視察

靜岡縣賀茂郡木炭業者一同は十九日來郡三郡木炭事業を視察する。

二丁目排水工事の寄附割當確定
大雨で目がさめた區民が直ちに取纒めに着手

平町では既報の如く一丁目、二丁目、田町の間の排水溝改修を計劃し工費五千五百圓を計上設計を終え着手するばかりになつてゐるが、地元寄附二千五百圓の折合がつかぬので行惱んでゐた處過般二回に亘つて大雨があり附近一帶泥海と化したので住民は改修の急を要する事を痛感し俄かに促進の氣運熟し右三町關係區民が協議の結果寄附割當てを左の如く決定し直ちに取纒めに着手したので多年の懸案であつた同工事も愈々實現される事になつた。

▲一丁目七百二十圓
▲二丁目、田町八百九十圓宛

小名濱消防幹部總辭職

石城郡小名濱町消防組宮地第二部長外九名の幹部は小濱組頭への反感から十日連袂辭職したが紛糾を豫想されてゐる。

巡回養蠶教師をおき違蠶防止をはかる
猛烈な繭購賣競爭に對抗し四倉繭市場支持の申合せ

石城販賣利用組合經營四倉繭市場に出荷した特約養蠶組合の組合長懇談會は十一日午前十時から四倉町市場に開いたが、出席者五十名で最近磐城片倉製絲、茨城縣是製絲その他各同業者が石城郡に於て猛烈な繭購買競爭を演じてゐるが、四倉繭市場の地位を斷然優勢の地位におくやう奮鬪する事を申し合はせた上蠶種統一、蠶種斡旋、加入者勸誘、初秋蠶掃立等について懇談を遂げた。初秋蠶は八月五日頃から掃立を開始し違蠶防止のため巡回養蠶教師を常置する事を市場側に希望しその快諾を得た

▲平、磐炭野球戰

平倶樂部對磐城炭礦の野球試合は十五日午後三時から磐中球場で擧行する。

平局の電話申込

平局の本年度特別電話加入受附第一日は三名程が局から申込書を持去つたので局では加入するものとして蓋明け早々頗る幸先よいとよろこんでゐるが、締切期日までには少くとも二十組位の申込があるだらうと觀測してゐる。

小川駒糶の優良馬六頭

昨報小川村で九日執行した二歳駒糶は最高五十五圓、最低十八圓、平均三十二圓八十錢、總取引額千五十圓であつたが優良馬左の如くであつた。

▲牝　1草野源太、2草野宇太吉、3草野寅吉
▲牡　1高木春治、2京野正、3草野寅吉

平町の清涼飲料水に不良品二千本發見
平署で特別檢査を行ひ斷然廢棄處分を命ず

平警察署では過般平全町に亘つて夏期衛生に密接の關係を有する清涼飲料物の特別檢査を行つた結果營業者五百四十三名から不良品二千九十四本を發見し廢棄を命じたが、内一名は告發した。不良品の内譯左の如くである。

▲個形物混入
サイダー四九五本、ラムネ四五〇本、果實水一八四本、計一一二九本
▲沈澱物混入
サイダー二〇本、ラムネ一五〇本、果實水四九七本、計六七四本。

就職口のない平商卒業生

平商業學校では今春卒業生四十名中辛うじて就職した者は僅に六名で、うち學校で斡旋した者は二名といふ情けない數字なので如何に深刻なる不況とはいへ餘りに不成績なるに鑑がみ同校では東京方面の銀行會社等に尠くも十名以上の就職者を送るべく早くもそれ〴〵の手蔓を探つて開拓準備に着手した。

行衛不明の青年
平町から遺書を送る　家人が驚いて捜索願

東京市外長崎町大字並木居住愛媛縣今治市二丁目四四木村寅一（二八）は去月十一日から行衛不明となつてゐたか、數日前自殺する旨を認めた平局の消印がある手紙が實兄清之の許に届いたので家人は驚き平署に捜索方を願ひ出でた。

▲吉屋田の賣出し

平町鍛冶町吉田屋呉服店では十三日より三日間四倉町新町山田屋方に於て出張大賣出しを行ふが、夏衣新柄を破格の値段で提供する由である。

四倉町で貸切遊覽船

四倉町字新町旭舘事吉田正氏は此程工費六百五十圓にて發動機遊覽船二十人乘を建造し七日進水を行つたが、同遊覽船は近海遊覽並に貸切に應ずる筈で、來る七月二十二日軍艦木曾が小名濱に入港する際は往復一圓にて軍艦見學者を乘せる筈である。往復時間二時間、出發時刻は午前六時より午後八時迄であると

▲四倉署に嘆願

本籍福井縣大野郡乾側村仲町七南部豊吉（六三）は十日午前九時四倉署内人事相談所を訪れ救濟方を願ひ出でた。

▲政府拂下米

農村救濟として拂下られた政府米の石城郡下各購買信用組合で取扱つた六月中の實況は泉の六百八十八俵を筆頭に勿來六百四十俵、渡邊、江名、小名濱、入遠野の各四百八十俵、平窪の二百四十俵草野の二百八俵、鹿島の三百二十俵、大浦の三百十六俵、合計四千二百七十二俵に達し拂下額は最低六圓二錢で之を六圓二十錢から七圓位までに組合から商人の手に渡り新米の最低額七圓五十錢よりもはるかに安く品質も左程の相違を見ないので商人も盛んに取引を行つたので各組合とも相當の利を見せたとは農村救濟は名ばかりにて實際は商人の喰物である。

▲インチキ商人

生活苦に喘く窮迫農村を巡つて農具販賣を種にインチキ商人が横行し尠からず農家を苦るしめてゐるが、石城郡下にも最近この種不良商人出沒しさる二十五日内郷村で郡農會の名を利用し杉本組合農具製作所發賣元若辰商會と稱しいかがはしい三德萬石機を販賣した者あり目下その筋で調査中であるが、これについて農郡會では各農家でも通り一遍の商人に對しては充分注意して貰ひたいと警告してゐる。

酌婦逃走
内郷に潜伏か

郡山市柳内町六四料理店影山ヨイ方抱酌婦服部あきの（二〇）は去る七日午後十一時頃登樓客と行衛不明になつたが、内郷村に居るらしいので平署に取押方を願ひ出でた。

▲四倉町出生死亡

四倉町役場調査に依る六月末まで同町出生二十三人、内男子十四人、女子九人死亡十八人、内男子七人、女子十一人婚姻九組である

讀者論談

投稿歡迎

青年諸君へ

（十九）　四倉町　吉田松雄

若い純な心によつて、豊な感性によつて堀り起す一塊の土は無感興にして精神生活の何物なるかを知らざる大地主が所有する幾千町歩の土よりもその精神的價値に於ては優るとも決して劣るものではない一日の勞働を終へて夕べに行水で、晝の苦熱の汗をさつと流し、例令その膳部の上は文字通り村酒野肴であつても、その氣持だによくば、その味は正に山海の珍味である。精神生活の價値は自己の精神の常住不斷の安住にある、不義にして成金となり、心苦して絹夜具の中に寢るよりも正しく働いて得たる報酬による木綿布團の中の寢心地こそ萬金にも替へ難きものではないか諸君の知れる範圍の知人に際限なき慾望に身心を奴隷となし漸く得たるその物質を更に少しとして尚多くを貪らんことを志して彼わその慾望の修羅道に餓鬼の如く苦惱の裡に彷徨して尚多くを得んとして轉輾してゐる者ありはしないか。亦その一面に於て得らるゝ程度に滿足し少くても有るものだけの程度に安んじて來る日も來る日も悠々迫らず安住の精神生活を送れる人もあるだらう。

前者は物質を所有しても尚所有せんとして餓鬼の如く苦惱し、後者は格別物質を所有せざるも所有せんとする慾望もなく、あるがまゝにくらしゆかるゝに任せて幸福に生活し行かんとする。

價値ある生活とは何か。人生眞の安住の世界はその懷中に千金を抱くを以て最上にはしない、況んや若い者が不正にして千金を懷中にして何條眞の幸福を得られてなるものぞ。

夏物新柄澤山取揃へた!!!
平町　吉田屋呉服店の
四倉出張大賣出し
期間　七月十三日ヨリ十五日マデ　三日間
四倉町新町
山田屋方
本年も相變らず御引立願ひます

例年の通りに
氷水及び色々の新口な飲料水を初ましたから例年の通り御引立御用命下さい。
調味は百パーセントデス
山盛の！
特製
アイスクリーム　十錢
あつきアイス　五錢
ミルクセーキ　十五錢
ソーダ水（色々）　十錢
氷スイカ　十錢
氷金とん　十錢
氷パインアップル　十錢
外澤山メヅラシキ飲物御座い升
◆……出前迅速……◆
平町三丁目
魚清食堂
電話六三三番

貸切ノ御用命ハ
ゼヒ　三井自動車部へ
電話六八五番
乘合は　好間・合戸・澤渡方面行

胃腸　内科　專門　十二指虫腸病
核毒　淋病　婦人病　專門　皮膚病
松村胃性腸病科醫院
平町南町（電話一〇七）

迅速と廉價
印刷物は　加納活版所

鼻の藥　チクノール
平五　山野邊藥局

久　釜屋商店

例年の通り
氷水始めました
多少に拘らず御用命御引立の程願上ます。
特製
アイスクリーム（山盛）　金十錢
あづきアイス（同）　金五錢
ミルクセーキ（同）　金十五錢
ソーダ水　金十錢
其他氷水各種
出前迅速
平町一丁目
藤寅
電話……一四一番

坊やのおち
四季を通じて完全母乳代用品
森永ドライミルク
地方代理店　關内藥局
電話四〇番
半ポンド　・九〇
一ポンド　一・七〇
三ポンド　五・〇〇
ドライは…（粉ミルク）
吾が育兒界に誇り得る唯一の國産粉末牛乳で如何に眞夏と雖、長期の保存に堪へお湯さへ加へれば純良、濃厚な色、味香共に勝れし母乳と同じ榮養價の新鮮牛乳を得られます。
國産粉乳の約八割の賣上を占むるドライは賣行第一なるが故に！品質又第一！

◎◎◎◎◎
氷の御用は
△△△△△△△
電話四六七番へ
勿來製氷會社一手販賣
平二丁目
警察署通り　魚清氷卸部
江名濱築港内
支店　江名販賣所
電話六十九番

吉田眼科病院
平町紺屋町　電話六八番